

平成 26 年度第 2 回図書館協議会議事録

1 開催日時 平成 26 年 9 月 20 日（土）午前 10 時 00 分～12 時 00 分

2 開催場所 中央図書館 2 階視聴覚室

3 出席者

（委員）根津委員長 押樋委員 松本委員 埜委員 奥委員
土久委員 須賀委員 伏見委員 扇谷委員
（事務局）森田館長 齋藤副館長 本多係長
白沢主査 三輪副主査

4 議題

（1）報告事項

- ①平成 26 年度利用統計及び事業報告について（4 月から 8 月）
- ②夏休みの行事実施状況について
- ③蔵書点検の結果について
- ④その他

5 議事の概要

- ①平成 26 年度 4 月から 8 月の利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
- ②夏休みの行事実施状況について、事務局より報告を行った。
- ③蔵書点検の結果について、事務局より報告を行った。
- ④堀江分館の休館及び図書館カルチャー開催について、事務局より報告を行った。

6 会議経過

①平成 26 年度 4 月から 8 月の利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（質問）市民大学で配布されている「調べ方の案内」が良くできている。図書館で作成しているのか。市民大学だけで配布しているのか。

（回答）図書館で作成している。テーマに応じ作成しており、レファレンス室等でも利用者に配布している。

（意見）図書館では公文書的なものも収集しているのか。

（回答）行政資料については基本的に、公開されている冊子を利用者に提供しており、公文書となると情報公開コーナーの対応となる。

（意見）図書館は資料が多いので、自分で調べるのは大変であるが、事前に「調

べ方の案内」が用意されているとありがたい。時間のないときなど助かっている。

(質問) 年齢別の利用について、データの分析や蔵書計画等への反映を行っているのか。この年齢の利用者がどのような資料を使っているのかデータ化できないか。

(回答) 蔵書計画の参考にしている。データを数値化するのは困難であるが、リタイア後の世代向けの、生活、福祉、介護等のジャンルの選書を厚くするなどデータを利用している。

(意見) 浦安は子どもの利用が多いイメージであったが、高齢者層など増えている層へのアピールを強化したほうがいい。

(回答) 「孫と一緒に図書館へ」をテーマに展示等を予定している。

(意見) 児童室が、子どもだけではなく、高齢者とのコミュニケーションの場として、高齢者を迎え入れられるとよい。

(回答) 高齢者へのサービスには力を入れたい。これまでも老人福祉センターとも連携し、センター利用者の図書館見学会も開いた。高齢による来館困難者への対応、施設の改修なども課題として認識している。

(意見) 年齢別のベストリーダー等で、年齢別の利用分野の集計はできるのではないか。20代から30代の利用が減ったことが、子どもの利用に影響している。25歳から45歳の人たちに、図書館に来てもらう取り組みを進めてもらいたい。

この年齢別利用状況は貴重なデータである。全国の図書館にも発表してもよいと考える。

(意見) 図書館のオープン時盛んに利用していた20代30代だった方が、50代60代になって今図書館の利用を支えている点は浦安の特色である。

(回答) 25歳から39歳の減少が、その子どもたちである5歳から9歳の利用の減少に影響している。

(質問) 集会事業が多いことに驚かされる。自分も利用しているが、参加者数の傾向はどうか。

(回答) やや減少している。共働きの増加により子どもだけでは来館できず、行事に参加できないケースもある。

(意見) 子どもたちの図書館離れを防ぐには、夏休みや冬休みがポイント。図書館に来館したくなるような企画を進めてもらいたい。また、高齢者や小さいお子さんを連れの方のために、児童室に畳コーナーなどがあるとよい。

(質問) 自由研究のレファレンスが多いとのことだか、本が多く選ぶのが大変である。分野ごとの解説などあるとよい。

(回答) 児童向けの「調べ方の案内」も検討している。

(意見) 公民館運営審議会において、子どもの公民館の学習室等の利用が増えていると報告があった。安全に学習できる場となっている。

公民館で学ぶサークルの地域貢献についても諮問を受けているが、図書館においては、学んだ後にどのようにしているか興味がある。集会事業等へのボランティア参加などの道を広げていくべきではないか。利用者を単なる利用者ではなく、運営者としての視点も考えたほうがよいのではないか。

(回答) ハンディキャップサービスにおいて、図書館で講習を受けた方が資料製作協力者として貢献いただいている部分もあるが、利用者全体をどう取り組んでゆくかは課題である。レファレンスなどが地域課題解決にどう結びついているか検証してみたい。

(意見) 量的な比較だけではなく、質の面で市民サービスにどれだけ貢献しているかを考えることが大事である。

(意見) 図書館で得たものをどのように活用したか、個人でどう役立てたかを知ることが、全国の図書館においても研究課題である。研究者との共同研究なども考えるとよい。

(意見) 若い世代はスマートフォン利用層と合致する。インターネットで簡単に調べられる環境になっている。図書館もおすすめの本の表紙画像を表示するなど具体的で、わかりやすいシステムを構築する必要があるのではないか。

(回答) 展示など、中高生に対する取り組みを始めている。協議会における意見をさらに反映するように努めたい。

(意見) 中学生で1日1から3時間スマートフォンを使用していると聞く。調査で10歳から19歳の利用が極端に落ちていないことに安心した。読書調査で影響が言われるのはもっと上の世代ではないか。

(意見) 大きな活字の本は、必要な字の大きさが個人によって違うので利用しにくいとの声がある。

美浜分館では浦安関係資料の表紙を見せて展示していたが、資料のアピールとなってよかった。

中央図書館では、窓のところの座席が少ないので、高齢者が雑誌等を読むためには、より明るい環境を望みたい。

美浜分館のテラスの部分で花壇整備が進んでいるようだが、テラスが利用できるようにしてもらいたい。

(意見) 日比谷図書館は窓際に椅子が多く、公園の中なので雰囲気良かった。浦安も緑が多いので改修の際活かすようにしてもらいたい。

(回答) 庁舎の建て替え後、中央図書館周辺は公園となる。現在の建物も自然光の採光を重視したコンセプトの設計である。改修の際には参考としたい。

(意見) 返却日の日限票を使い、「あなたの読書人生を変えた本」等のアンケートを実施すれば、各年齢層の読書傾向などもわかって良いのでは。

(意見) 日限票はもっとPR等に活用すべきである。おすすめ本を入れるのもよい。

②夏休みの行事実施状況について、事務局より報告を行った。

その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（質問）中学生のおすすめコーナーはどのような本を選んでいるのか。

（回答）児童書の分野からのおすすめの図書と、一般書の中から中高生に人気のある作家作品や、課題図書になるような図書を集めた。

（意見）中学生だと、中高生レベルの本にはほとんど手が出ない。高校生は一般書も読めるので中学生向けにしてもよいと思う。

（回答）むしろ高校生に対象を広げることを意識した。幅広く選ぶようにしたい。

（意見）これだけ夏休みに行事を行っているなら、やっていることを広報すべきである。全国に先駆け専任の広報担当者を置くことも考えたほうがよい。

（回答）ホームページの見直しなど、情報発信について課題として改善を進めている。

（意見）プレスリリースの活用など、市の広報の活用も大事である。

（意見）市長の参加など、マスコミ等が図書館に注目するようなPRを考えてもらいたい。

③蔵書点検の結果について、事務局より報告を行った。

意見（質問）なし。

④堀江分館の休館及び図書館カルチャー開催について、事務局より報告を行った。

意見（質問）なし。

7 傍聴者 0名